

2025年巳年 新年のご挨拶

2025年、初めてのご挨拶をさせていただきます。皆様におかれましては、本年も健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。日頃の当会へのご参加、心より感謝申し上げます。

昨年2024年は、吸入療法に関連して、様々に節目となるような出来事がいくつもあったように思います。具体的には、まずは各種ガイドラインの改訂が相次ぎました。喘息に関連しては、アレルギー学会監修の「喘息予防・管理ガイドライン2024」、日本喘息学会監修の「喘息診療実践ガイドライン2024」、WHO・NIHによる「Global Strategy for Asthma Management and Prevention」の3大ガイドラインが同時改訂になりました。COPDに関連しても、同じくWHO・NIHによる「Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease」が改訂になっています。また、新薬としても肺高血圧症（トレプロスチニル）、肺胞蛋白症（サルグラモスチム）、肺MAC症（アミカシンリポソーム吸入用懸濁液）など、多くの呼吸器疾患で新たな吸入製剤が登場・本格的に処方開始となりました。

当会も、2024年に設立10周年を迎えておりました。一地方の薬剤師と医師、一地域の薬剤師会と病院による取り組みゆえ、派手さはなく全くの「無名」。表だって祝われることもなければ、賞賛されることもなく…。しかし、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」。皆様と共に、実直に活動してまいりました結果を、胸の中で静かに喜んでおります。学会レベルの「理想」と、実臨床の「現実」におけるギャップを、しっかりと埋めていく。各種情報発信や資材の作成・配布、講習・講演会などの活動を通じ、この目標はしっかりと達成し続けることが出来ていると確信しています。皆様とかような活動を10年も継続してこられた喜びを、改めて嘯みしめております。

今年2025年、11年目以降も、初心を忘れず、皆様と共に「吸入療法の普及と発展」そして「地域医療のさらなる向上」を目指していくことを誓います。これからも皆様から変わらぬご支持・ご支援・ご協力をいただけますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

(文 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 呼吸器内科 高久洋太郎)